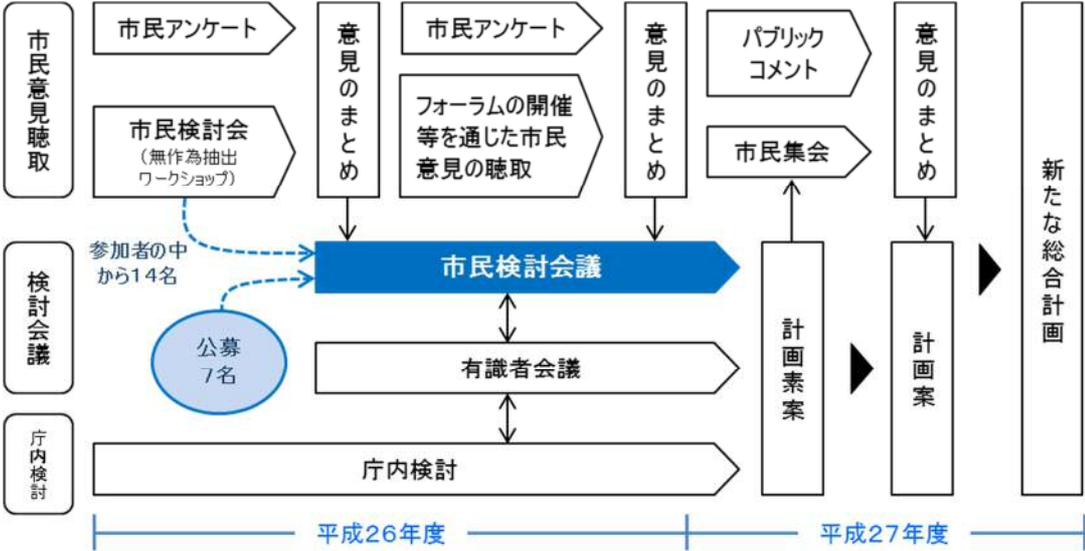


川崎市総合計画市民検討会議 第1回全体会 開催概要

日時:平成 26 年 10 月 4 日(土)9:30~12:15
会場:川崎市役所 第4庁舎 第6・7会議室

1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として本会議を設置しました。
- 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. 今後の開催予定について

- | | |
|------------------|------------------------|
| 平成 26 年 10 月 4 日 | 第 1 回全体会 |
| 11 月 1 日 | 第 1 回部会 (社会福祉 (介護、健康)) |
| 12 月 21 日 | 第 2 回部会 (子育て、教育) |
| 平成 27 年 1 月 25 日 | 第 2 回全体会 |
| 2 月 8 日 | 第 3 回部会 (暮らし、交通) |
| 3 月 1 日 | 第 3 回全体会 |

3. 会議の構成について

- 会議は次のとおり、市民 21 名とコーディネーター (学識経験者) 1 名の計 22 名で構成されています。(名簿のとおり)

公募市民	… 7 名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	… 14 名
コーディネーター (中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)	… 1 名

※ 20 代～70 代の市民。各区概ね均等な人数で、男性 11 名・女性 10 名 (コーディネーターを除く)

● 川崎市総合計画市民検討会議委員（敬称略）

荻原 進（川崎区）、小山 了（川崎区）、外山 瑠美（川崎区）、青柳 昇二（幸区）
加藤 英雄（幸区）、新富 征人（幸区）、川島 弘一（中原区）、馬場 直子（中原区）
松本 玲子（中原区）、岡田 義一（高津区）、飯田 眞（高津区）、片山 利昭（高津区）
長谷川 秀子（高津区）、加藤 浩照（宮前区）、辻 麻里子（宮前区）、長野 敏幸（宮前区）
小池 朋子（多摩区）、山下 博子（多摩区）、後本 直子（多摩区）、加藤 美於（麻生区）
山下 千裕（麻生区）、磯崎 初仁（コーディネーター・中央大学法学部教授）

4. 第1回全体会の開催概要について

(1) コーディネーターあいさつ

- 会議の総合調整を担っていただく中央大学の磯崎教授からは以下のようなお話しをいただきました。
 - 人口減少や厳しい財政状況など、困難な時代だからこそ、限られた財源や人材をどううまく使うか、知恵を絞って総合計画を作り、市役所と市民が共有することが必要
 - まちづくりは市民が主役なので、市民参加で検討することはたいへん重要な意味合いを持つ



コーディネーターの
磯崎初仁中央大学教授

(2) 市長あいさつ

- 市長からは、以下のような挨拶がありました。
 - 各区で行われた『川崎の未来を考える市民検討会』に出てみると、子育て世代、シニア世代など、世代を越えてつながろうという意識が高いことが共通して感じられた。
 - 今後、財政状況が厳しくなる中で、多世代で結び付きあって、地域の工夫で住みよいまちをつくっていくことが重要となる。
 - 本日は、市民が自らその第一歩を踏み出そうという取組であり、ぜひ活発な意見交換をお願いしたい。



福田市長からのあいさつ

(3) グループディスカッション

- 3つのグループに分かれて、「未来を見据えて乗り越えなければならない課題」「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」「新たな飛躍に向けたチャンス」をテーマに、グループディスカッションを行いました。



①各自のアイデアを付箋に記入



②みんなのアイデアを共有化



③共感できる意見に投票

- 主な意見としては、以下のようなものがありました。
 - 「課題」について
 - 「PRが不足している」「情報が届いていない」といった情報発信に関する意見や、「川崎のイメージ・アイデンティティの確立が必要」、「川崎の人材や活動の活用が大事」など。
 - 「少子高齢化・人口減少への転換」について
 - 「高齢者が力を発揮し、安心して暮らしやすい社会を実現すべき」、「多世代交流により地域のつながりをつくることが重要」、「子育て環境を整備し、若年層に来てもらうことが必要」など。
 - 「ポテンシャル、チャンス」について
 - 「先端産業の集積を生かして、企業と地域をつなぐことが重要」、「交通・物流の利便性を生かして、東京や横浜と連携しつつ独自性を発揮すべき」、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、観光等の取組ができないか」など。

(4) 成果の発表、コーディネーターまとめ

- 各グループから成果発表を行った後、最後に、コーディネーターの磯崎教授から、話し合いの内容を3つのキーワードで総括していただきました。
 - 「**交流・コミュニケーション**」・新旧住民の対話や北部と南部の交流、さらには企業と地域との連携が必要。
 - 「**世代**」・高齢者と若い世代・子どもなど、多世代の交流が大切という話が多かった。また、高齢者の中にもさまざまな高齢者がいるので、高齢者とひとくりにせず、細分化して考えていく必要がある。
 - 「**PR・イメージ**」・海外にも通用する川崎らしさを確立し、行政からだけでなく、市民からも伝えていくことも大事と感じた。



グループのまとめ

→ 次回からは部会に分かれて、分野を特定し、テーマを絞って、具体的な話し合いを進めていきます。



グループディスカッションにおける意見まとめの概要

- グループディスカッションでは、各グループで「今後の議論をするうえで大切にしたいポイント」について、それぞれまとめを行いました。
- ここでは、各グループの意見を、コーディネーターから示された3つの共通のキーワードに沿って分類し、それらに該当しない意見をさらに3つに分類して整理してあります。

①交流・コミュニケーション

コミュニティのつながりを → そのためのコミュニケーションの機会を!! 3G

- 市の取り組みについて、もっと情報発信やPRが必要
- 民(民間企業・市民活動)の取組も、お互いに知り合う必要がある。

地域のつながりづくり 3G

- 新旧住民、南部と北部のコミュニケーションの機会を増やす。
- 公園などの緑・環境資源を生かす。それが地域のつながりづくりにもつながる。
- 防災への備えを逆にチャンスととらえ、まちづくりに生かす。

ハイテク企業と地域のつながりをつくる(“シリコンバレー”) 2G

- 川崎にはシリコンバレーに匹敵するハイテク企業が集積しているが、企業には川崎にいるという意識がない。一方、地域の側、市民の側にも、企業に対する意識がない。双方の「地域意識」の涵養が重要。
- 子どもにおける地元のハイテク企業への理解が深まれば、子どもの学力向上につながることも期待できる。さらに郷土愛の醸成、ひいては定住促進につながり、税収増にもつながる。

②世代

場づくり・機会づくりによる多世代交流 1G

- 高齢者と子供の交流による子育て環境充実と高齢者の生きがいづくり
- 空き施設を活用した交流の場となる空間の確保

子育てから、世代間交流で、高齢者と子どもをつなぐ 2G

- 「子育てと防災の拠点」などの「場づくり」→ ソフト/ハードにわたる多機能化
- 福祉にもつながる。
- 高齢者と子どもをつなぐことには、財政的な効果もある。

「市民」「川崎」をひとくりにせず、状況に応じた取組を!! 3G

- インフラ整備も違いへの配慮が必要(南北の差、地勢や地理、人口構成の異なり)
- 高齢者には、「支援が必要な高齢者」と、「活躍の場」が必要な元気な高齢者が存在する。対象を細分化して施策を考える必要があるのでは？

③PR・イメージ、発信

イメージアップと川崎らしさのPR 1G

- かわさき及び「かわさき人」のイメージアップ
- 川崎の特徴のPR

「立地」への着目 → 他都市と連携しながら川崎らしさを! 3G

- 東京と横浜に挟まれている環境で、外から見ると「川崎らしさ」や「個性」が埋没しがち。
- 『川崎らしさ』を市民が誇れるように→「シンボル」となるものをつくる必要があるのでは？
- 『公害のまち川崎』に代わるキャッチフレーズをつくり、浸透させる機会にしたい

自然発生的なPRで、広がる・伝わる 2G

- 上記の「場づくり」のような、市民の中で自然に生まれたものをPRする。(無理なPRをしない)
- こうした市民主体のPRに対して、行政のPRをミックスして、相乗効果を発揮。

災害時の情報の伝達 1G

- 情報提供による自助、共助の促進
- 防災への備え

④資源(人材、地域資源等)の活用

市内の人材の活用 1G

- 子育て支援など、元気な高齢者を増やし、活用する
- 市内在住のプロ人材など地域の人材を有効活用する

市内の人材や学校などを活用する 2G

- 色々なスキル・知識を持つ市内人材(シニア含む)を活用する。
- イベントなどで、大学・高校・小中学校と連携する。

河川敷を活用して、川崎の魅力を発信する 2G

- 河川敷を生かしてイベント等を開催する。行政は、河川敷を整備し、場の提供を。
- 仮設テントなどを使えばお金をかけずにできる。工夫すれば、市民や企業からお金を出してもらうこともできる。
- 東京オリンピックが始まれば、都内には落ち着ける場所はなくなる。人ごみに疲れた人にとって、川崎の緑や音楽は大きな魅力になる。それらを生かしたイベントを開催し、PRすべき。

資源(芸術・スポーツ・自然)のネットワーク化による活用 1G

- プロチーム(フロンターレ)や施設などスポーツ資源の活用
- ミュージアムの一層の活用
- 自然環境の保全と活用
- 上記のような点に在る資源(大学や企業を含む)のネットワーク化による有効活用

遊休資源がある!! 3G

- 民間企業が有している遊休の土地建物の活用を促す必要があるのでは？
- 市の資産も十分活用されていない。(文化施設など)
- 遊休資源には、土地、建物だけではなく、人材も含まれているのでは？大学や企業人材の活用が必要。

オリンピック・パラリンピックの活用 1G

- オリンピック・パラリンピックのインパクトを活用した観光振興
- 障害者の地域参加

⑤生活環境

すべての世代が安心できる医療 1G

- 老後の不安がなく、一人暮らしでも安心できる環境の確保

交通利便性の強化と地域間連携等への活用 1G

- 広域交通利便性の強化、活用と地域連携の促進
- 道路網整備や公共交通機関の活用など地域交通の充実

子どもが安心して遊べる環境と充実した教育環境の提供 1G

- 学校以外に子供が外で安心して遊べる環境の整備
- 充実した教育環境

⑥実行性

どこまでだったらできる? → 財政状況は? 本当にできる? 3G

- 議論をする際に、あれもこれもではなく、現実性のある提案にしたい。そのためには財政状況にも配慮が必要なのでは？

具体的なアクションを考えたい!! 3G

1 課題

市民検討会における主な意見

① 少子高齢化・人口減少への転換

- ①高齢者施設と幼稚園を複合化する
- ①高齢者による子育て支援を促進する
- ①子育て中の人安心して働ける環境づくり
- ①若い世代にどんどん来てもらう
- ①元気な高齢者を増やすことが重要
- ①高齢者の移動しやすいまちに
- ①駅近くに保育の施設を設置することが必要
- ①学校以外でも子どもが学べるまちに！

② 厳しさが続く財政状況

- ②食文化をアピールしてお金を生み出そう
- ②年金に頼らないしくみづくりを

③ 老朽化の進む都市インフラ

- ③施設用途の柔軟な変更
- ③ハコモノに限らず、機能を増やす発想が大事
- ③遊び場不足に学校や空き地を活用する
- ③学校の空き教室を活用し、高齢者と子どもが交流する

④ 産業経済を取り巻く環境変化

- ④高齢者の仕事をつくる
- ④新たな観光資源の開発
- ④ラゾーナが賑わう方、商店街に活気がない

⑤ 災害対策や環境問題

- ⑤災害時の情報伝達が大変。行政ができないことを知る
- ⑤自助・共助の力を高めることが必要
- ⑤民間企業と連携した防災事業
- ⑤環境資源を大切にしまちづくり

⑥ 地域コミュニティ、地域の助け合い

- ⑥行事などを通じた多世代交流の促進が重要
- ⑥地域のつながりをつくるのが重要
- ⑥市民通貨をつくり、余力を活用する
- ⑥町会を活用・活性化することが重要
- ⑥町会活動を見える化する
- ⑥新旧住民のコミュニケーションの機会を増やす

⑦ その他

- ⑦PRが不足している、情報が届いていない
- ⑦女性に選ばれるまちを
- ⑦市内に在住する「プロ」の力を得る

2 ポテンシャル、3 チャンス

市民検討会における主な意見

① 交通・物流の利便性

(羽田空港、川崎港、鉄道・バス等)

- ①交通アクセスがよい
- ①東京・横浜との連携
- ①平地が多く、自転車の移動がしやすい

② 先端産業・研究機関の集積

(環境・生命科学・医療分野、大学等)

- ②大学との連携の促進が重要

③ 豊富な文化・芸術資源

(音楽、映像、スポーツ等)

- ③共通の趣味でコミュニティをつなぐことが必要
- ③ミュージアをもっと区民に活用されるように
- ③大学と連携して芸術に触れる機会を
- ③農業を観光資源にする
- ③自然・エンターテインメントなどバランスのとれたまちづくり
- ③点在する資源をつなげよう
- ③子どもがプロのスポーツ選手や芸術家に触れる
- ③パブリックアートを増やしたい

④ 国の成長戦略、特区

- ⑤オリンピックに向け何か観光の取組はできないか
- ⑤障がいがある人が地域参加しやすく

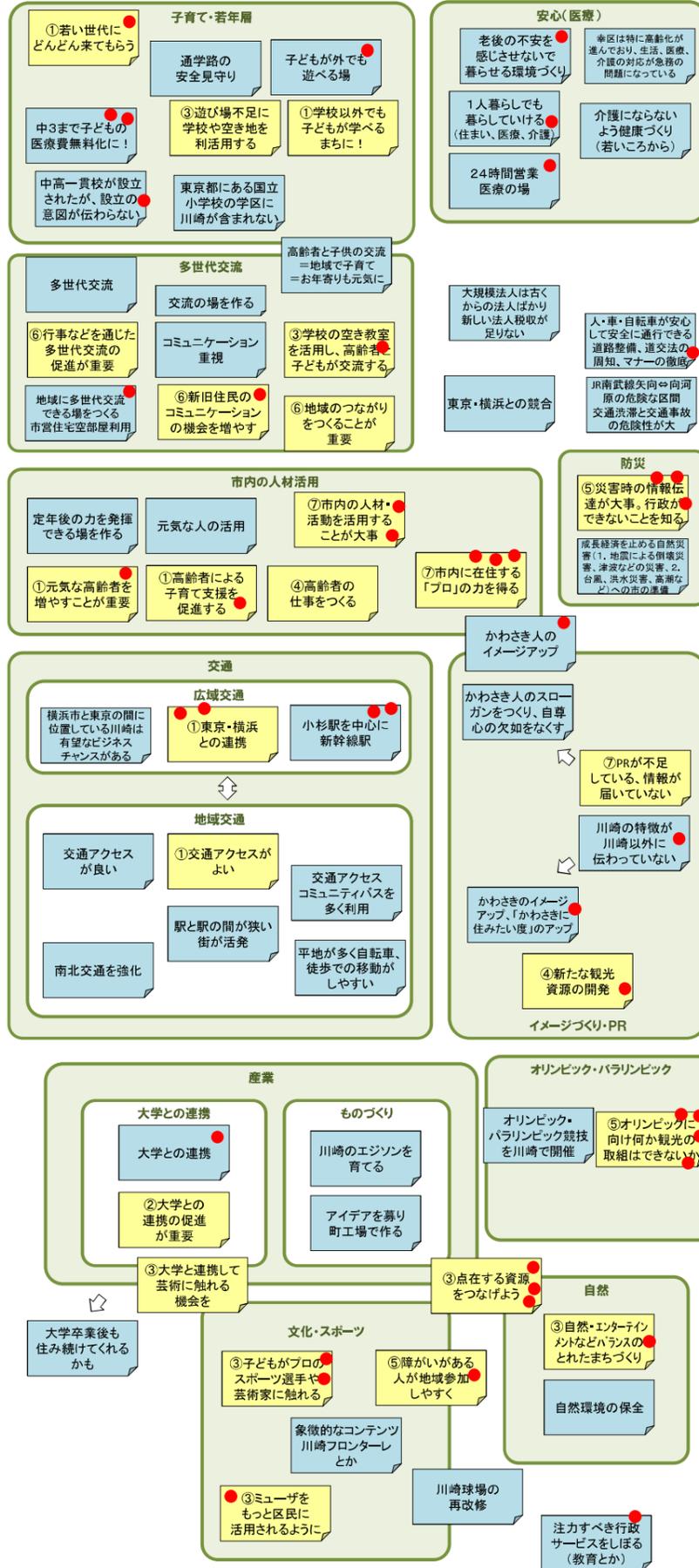
⑤ 東京オリンピック・パラリンピック (2020年)

⑥ 羽田空港のさらなる国際化

- ⑦市内の人材・活動を活用することが大事
- ⑦シンボルとなるみどりの公園づくりが重要
- ⑦どこでもWiFiにつながるように防災や観光に生かす

⑦ その他

「1 課題」、 「2 ポテンシャル」、 「3 チャンス」に関するディスカッション



今後の議論をするうえで大切にしたいポイント

すべての世代が安心できる医療

- ・ 老後の不安がなく、一人暮らしでも安心できる環境の確保

子どもが安心して遊べる環境と充実した教育環境の提供

- ・ 学校以外に子供が外で安心して遊べる環境の整備
- ・ 充実した教育環境

場づくり・機会づくりによる多世代交流

- ・ 高齢者と子供の交流による子育て環境充実と高齢者の生きがいづくり
- ・ 空き施設を活用した交流の場となる空間の確保

イメージアップと川崎らしさのPR

- ・ かわさき及び‘かわさき人’のイメージアップ
- ・ 川崎の特徴のPR

災害時の情報の伝達

- ・ 情報提供による自助、共助の促進
- ・ 防災への備え

市内の人材の活用

- ・ 子育て支援など、元気な高齢者を増やし、活用する
- ・ 市内在住のプロ人材など地域の人材を有効活用する

交通利便性の強化と地域間連携等への活用

- ・ 広域交通利便性の強化、活用と地域連携の促進
- ・ 道路網整備や公共交通機関の活用など地域交通の充実

資源(芸術・スポーツ・自然)のネットワーク化による活用

- ・ プロチーム(フロンターレ)や施設などスポーツ資源の活用
- ・ ミューザの一層の活用
- ・ 自然環境の保全と活用
- ・ 上記のような点在する資源(大学や企業を含む)のネットワーク化による有効活用

オリンピック・パラリンピックの活用

- ・ オリンピック・パラリンピックのインパクトを活用した観光振興
- ・ 障害者の地域参加

1 課題

市民検討会における主な意見

① 少子高齢化・人口減少への転換

- ①高齢者施設と幼稚園を複合化する
- ①高齢者による子育て支援を促進する
- ①子育て中の人が安心して働ける環境づくり
- ①若い世代にどんどん来てもらう
- ①元氣な高齢者を増やすことが重要
- ①高齢者の移動しやすいまちに
- ①駅近くに保育の施設を設置することが必要
- ①学校以外でも子どもが学べるまちに！

② 厳しさが続く財政状況

- ②食文化をアピールしてお金を生み出そう
- ②年金に頼らないしくみづくりを

③ 老朽化の進む都市インフラ

- ③施設用途の柔軟な変更
- ③ハコモノに限らず、機能を増やす発想が大事
- ③遊び場不足に学校や空き地を活用する
- ③学校の空き教室を活用し、高齢者と子どもが交流する

④ 産業経済を取り巻く環境変化

- ④高齢者の仕事をつくる
- ④新たな観光資源の開発
- ④ラゾーナが賑わう、商店街に活気がない

⑤ 災害対策や環境問題

- ⑤災害時の情報伝達が大事。行政ができないことを知る
- ⑤自助・共助の力を高めることが必要
- ⑤民間企業と連携した防災事業
- ⑤環境資源を大切にしたいまちづくり

⑥ 地域コミュニティ、地域の助け合い

- ⑥行事などを通じた多世代交流の促進が重要
- ⑥地域のつながりをつくることが重要
- ⑥市民通貨をつくり、余力パワーを活用する
- ⑥町会を活用・活性化することが重要
- ⑥町会活動を見える化する
- ⑥新旧住民のコミュニケーションの機会を増やす

⑦ その他

- ⑦PRが不足している、情報が届いていない
- ⑦女性に選ばれるまちを
- ⑦市内に在住する「プロ」の力を得る

2 ポテンシャル、3 チャンス

市民検討会における主な意見

① 交通・物流の利便性

(羽田空港、川崎港、鉄道・バス等)

- ①交通アクセスがよい
- ①東京・横浜との連携
- ①平地が多く、自転車の移動がしやすい

② 先端産業・研究機関の集積

(環境・生命科学・医療分野、大学等)

- ②大学との連携の促進が重要

③ 豊富な文化・芸術資源

(音楽、映像、スポーツ等)

- ③共通の趣味でコミュニティをつなぐことが必要
- ③ミュージアをもっと区民に活用されるように
- ③大学と連携して芸術に触れる機会を
- ③農業を観光資源にする
- ③自然・エンターテインメントなどバランスのとれたまちづくり
- ③点在する資源をつなげよう
- ③子どもがプロのスポーツ選手や芸術家に触れる
- ③パブリックアートを増やしたい

④ 国の成長戦略、特区

- ⑤オリンピックに向け何か観光の取組はできないか
- ⑤障がいがある人が地域参加しやすく

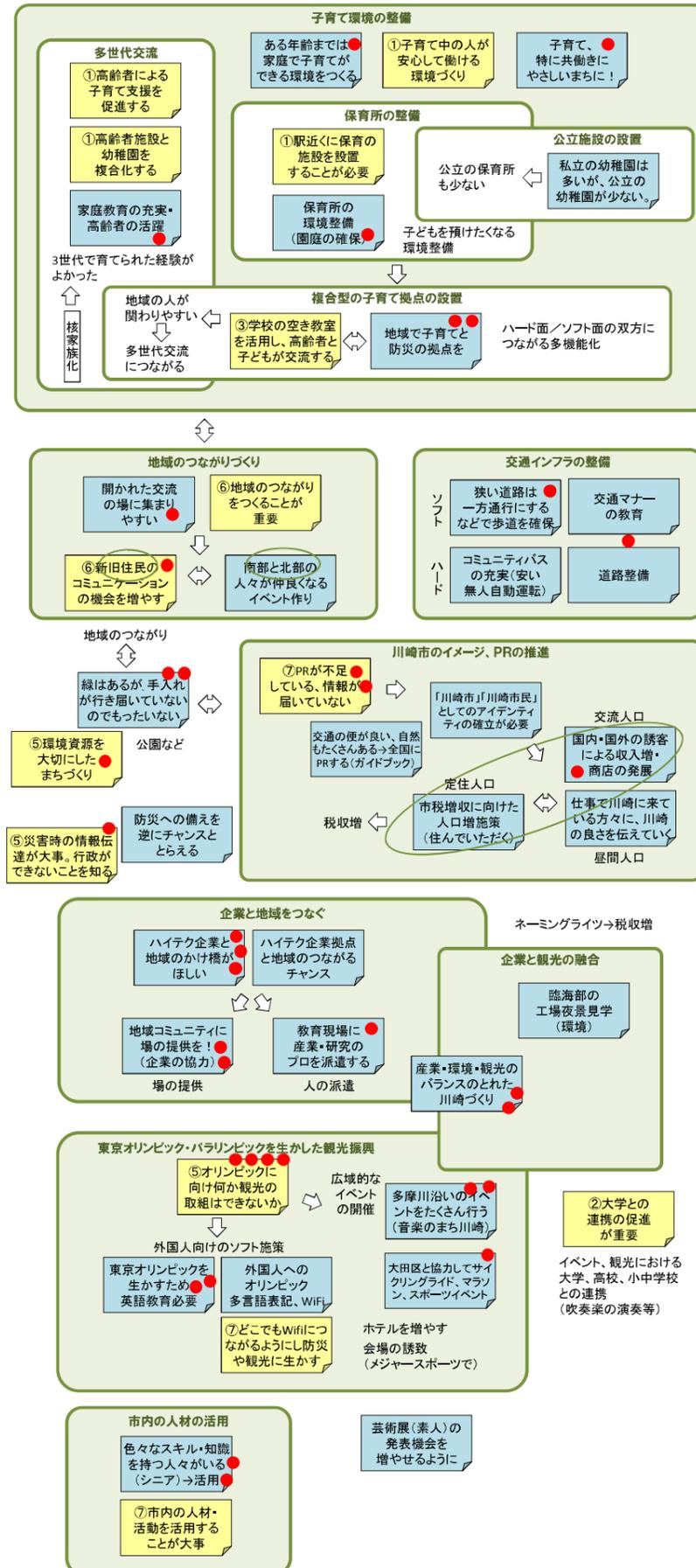
⑤ 東京オリンピック・パラリンピック (2020年)

⑥ 羽田空港のさらなる国際化

- ⑦市内の人材・活動を活用することが大事
- ⑦シンボルとなるみどりの公園づくりが重要
- ⑦どこでもWifiにつながるようし防災や観光に生かす

⑦ その他

「1 課題」、「2 ポテンシャル、3 チャンス」に関するディスカッション



今後の議論をするうえで大切にしたいポイント

子育てから、世代間交流で、高齢者と子どもをつなぐ

- ・「子育てと防災の拠点」などの「場づくり」
→ ソフト/ハードにわたる多機能化
- ・福祉にもつながる。
- ・高齢者と子どもをつなぐことには、財政的な効果もある。

地域のつながりづくり

- ・新旧住民、南部と北部のコミュニケーションの機会を増やす。
- ・公園などの緑・環境資源を生かす。それが地域のつながりづくりにもつながる。
- ・防災への備えを逆にチャンスととらえ、まちづくりに生かす。

自然発生的なPRで、広がる・伝わる

- ・上記の「場づくり」のような、市民の中で自然に生まれたものをPRする。(無理なPRをしない)
- ・こうした市民主体のPRに対して、行政のPRをミックスして、相乗効果を発揮。

ハイテク企業と地域のつながりをつくる (“シリコンバレー”)

- ・川崎にはシリコンバレーに匹敵するハイテク企業が集積しているが、企業には川崎にいるという意識がない。一方、地域の側、市民の側にも、企業に対する意識がない。双方の「地場意識」の涵養が重要。
- ・子どもにおける地元のハイテク企業への理解が深まれば、子どもの学力向上につながることも期待できる。さらに郷土愛の醸成、ひいては定住促進につながり、税収増にもつながる。

河川敷を活用して、川崎の魅力を発信する

- ・河川敷を生かしてイベント等を開催する。行政は、河川敷を整備し、場の提供を。
- ・仮設テントなどを使えばお金をかけずにできる。工夫すれば、市民や企業からお金を出してもらってもできる。
- ・東京オリンピックが始まれば、都内には落ち着ける場所はなくなくなる。人ごみに疲れた人にとって、川崎の緑や音楽は大きな魅力になる。それらを生かしたイベントを開催し、PRすべき。

市内の人材や学校などを活用する

- ・色々なスキル・知識を持つ市内人材(シニア含む)を活用する。
- ・イベントなどで、大学・高校・小中学校と連携する。

1 課題

市民検討会における主な意見

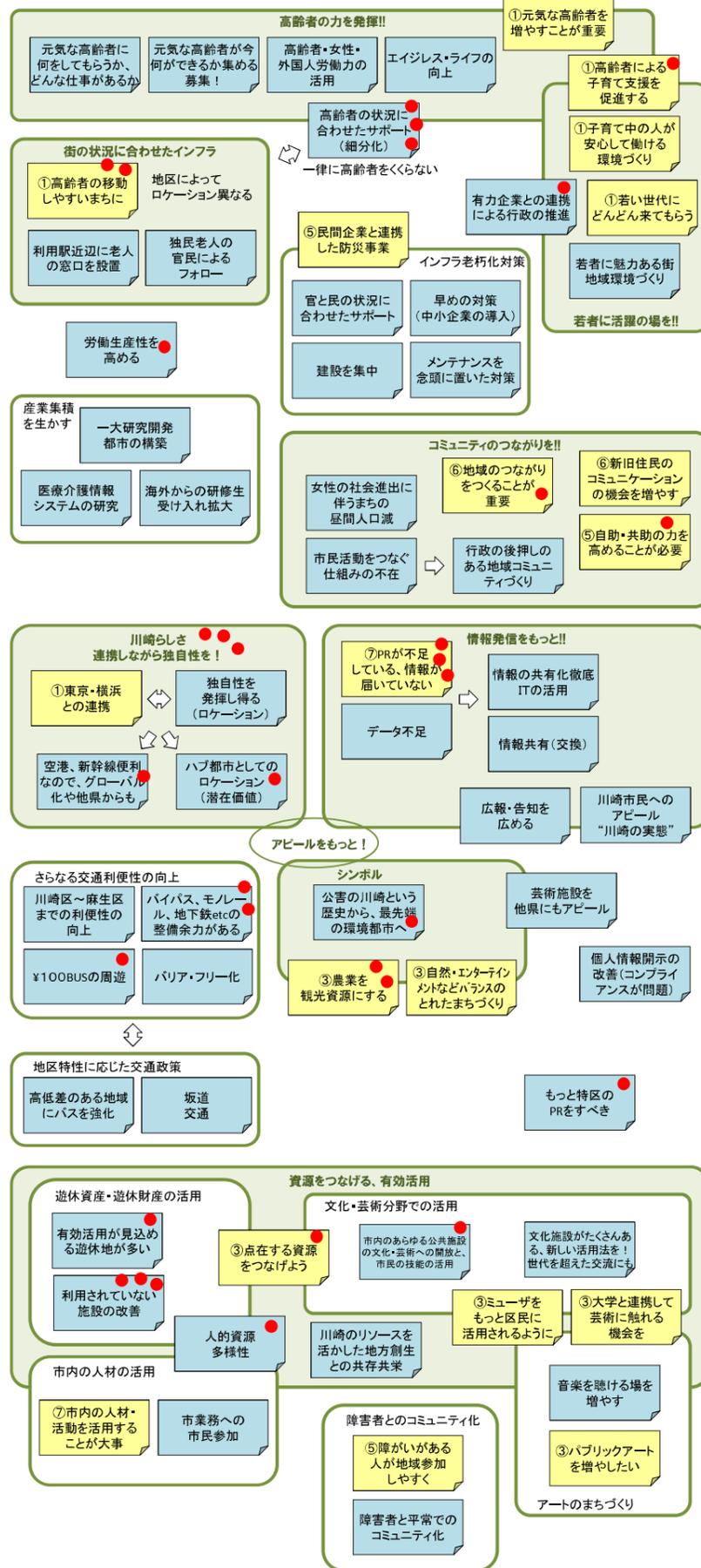
- ①少子高齢化・人口減少への転換
 - ①高齢者施設と幼稚園を複合化する
 - ①元氣な高齢者を増やすことが重要
 - ②食文化をアピールしてお金を生み出そう
 - ③施設用途の柔軟な変更
 - ④高齢者の仕事をつくる
 - ⑤災害時の情報伝達が大変。行政ができないことを知る
 - ⑥行事などを通じた多世代交流の促進が重要
 - ⑦PRが不足している、情報が届いていない
- ②厳しさが続く財政状況
 - ①高齢者による子育て支援を促進する
 - ①高齢者の移動しやすいまちに
 - ②年金に頼らないしくみづくり
 - ④新たな観光資源の開発
 - ⑤自助・共助の力を高めることが必要
 - ⑥町会を活用・活性化することが重要
 - ⑦女性に選ばれるまちを
- ③老朽化の進む都市インフラ
 - ①子育て中の人が安心して働ける環境づくり
 - ①駅近くに保育の施設を設置することが必要
 - ③遊び場不足に学校や空き地を活用する
 - ④ラゾーナが賑わう方、商店街に活気がない
 - ⑤民間企業と連携した防災事業
 - ⑥市民通賃をつくり、余力パワーを活用する
 - ⑦市内に在住する「プロ」の力を得る
- ④産業経済を取り巻く環境変化
 - ①若い世代にどんどん来てもらう
 - ①学校以外でも子どもが学べるまちに！
 - ③学校の空き教室を活用し、高齢者と子どもが交流する
 - ④ラゾーナが賑わう方、商店街に活気がない
 - ⑤環境資源を大切にしまちづくり
 - ⑥新旧住民のコミュニケーションの機会を増やす
- ⑤災害対策や環境問題
 - ①元氣な高齢者を増やすことが重要
 - ①高齢者の移動しやすいまちに
 - ③遊具不足に学校や空き地を活用する
 - ④ラゾーナが賑わう方、商店街に活気がない
 - ⑤環境資源を大切にしまちづくり
 - ⑥新旧住民のコミュニケーションの機会を増やす
- ⑥地域コミュニティ、地域の助け合い
 - ①元氣な高齢者を増やすことが重要
 - ①高齢者の移動しやすいまちに
 - ③遊具不足に学校や空き地を活用する
 - ④ラゾーナが賑わう方、商店街に活気がない
 - ⑤環境資源を大切にしまちづくり
 - ⑥新旧住民のコミュニケーションの機会を増やす
- ⑦その他
 - ①元氣な高齢者を増やすことが重要
 - ①高齢者の移動しやすいまちに
 - ③遊具不足に学校や空き地を活用する
 - ④ラゾーナが賑わう方、商店街に活気がない
 - ⑤環境資源を大切にしまちづくり
 - ⑥新旧住民のコミュニケーションの機会を増やす

2 ポテンシャル、3 チャンス

市民検討会における主な意見

- ①交通・物流の利便性 (羽田空港、川崎港、鉄道・バス等)
 - ①交通アクセスがよい
 - ①東京・横浜との連携
 - ①平地が多く、自転車の移動がしやすい
- ②先端産業・研究機関の集積 (環境・生命科学・医療分野、大学等)
 - ②大学との連携の促進が重要
- ③豊富な文化・芸術資源 (音楽、映像、スポーツ等)
 - ③共通の趣味でコミュニティをつなぐことが必要
 - ③ミュージアをもっと区民に活用されるように
 - ③大学と連携して芸術に触れる機会を
 - ③農業を観光資源にする
 - ③自然・エンターテインメントなどバランスのとれたまちづくり
 - ③点在する資源をつなげよう
 - ③子どもがプロのスポーツ選手や芸術家に触れる
 - ③パブリックアートを増やしたい
- ④国の成長戦略、特区
 - ⑤オリンピックに向け何か観光の取組はできないか
 - ⑤障がいがある人が地域参加しやすく
- ⑤東京オリンピック・パラリンピック (2020年)
 - ⑤オリンピックに向け何か観光の取組はできないか
 - ⑤障がいがある人が地域参加しやすく
- ⑥羽田空港のさらなる国際化
 - ⑦市内の人材・活動を活用することが大事
 - ⑦シンボルとなるみどりの公園づくりが重要
 - ⑦どこでもWifiにつながるよう防災や観光に生かす
- ⑦その他
 - ⑦市内の人材・活動を活用することが大事
 - ⑦シンボルとなるみどりの公園づくりが重要
 - ⑦どこでもWifiにつながるよう防災や観光に生かす

「1 課題」、「2 ポテンシャル、3 チャンス」に関するディスカッション



今後の議論をするうえで大切にしたいポイント

「市民」「川崎」をひとくりにせず、状況に応じた取組を!!

- ・インフラ整備も違いへの配慮が必要(南北の差、地勢や地理、人口構成の異なり)
- ・高齢者には、「支援が必要な高齢者」と、「活躍の場」が必要な元氣な高齢者が存在する。対象を細分化して施策を考える必要があるのでは?

コミュニティのつながりを → そのためのコミュニケーションの機会を!!

- ・市の取り組みについて、もっと情報発信やPRが必要
- ・民(民間企業・市民活動)の取組も、お互いに知り合う必要がある。

どこまでだったらできる?? → 財政状況は? 本当にできるの?

- ・議論をする際に、あれもこれもではなく、現実性のある提案にしたい。そのためには財政状況にも配慮が必要なのでは?

「立地」への着目 → 他都市と連携しながら川崎らしさを!

- ・東京と横浜に挟まれている環境で、外から見ると「川崎らしさ」や「個性」が埋没しがち。
- ・『川崎らしさ』を市民が誇れるように → 「シンボル」となるものをつくる必要があるのでは?
- ・『公害のまち川崎』に代わるキャッチフレーズをつくり、浸透させる機会にしたい

遊休資源がある!!

- ・民間企業が有している遊休の土地建物の活用を促す必要があるのでは?
- ・市の資産も十分活用されていない。(文化施設など)
- ・遊休資源には、土地、建物だけではなく、人材も含まれているのでは? 大学や企業人材の活用が必要。

具体的なアクションを考えたい!!